

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年12月25日(2014.12.25)

【公表番号】特表2014-500757(P2014-500757A)

【公表日】平成26年1月16日(2014.1.16)

【年通号数】公開・登録公報2014-002

【出願番号】特願2013-538987(P2013-538987)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/28 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/28

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月7日(2014.11.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

骨移植材料を含む装置であって、  
近位端から遠位端まで長手方向に延在する内側スリーブと、  
骨移植片採取空間がその間に形成されるように、前記内側スリーブを取り囲み、かつ近位端から遠位端まで長手方向に延在する外側スリーブと、  
を備え、

前記内側スリーブの前記近位端は、前記外側スリーブの前記近位端を越えて近位に延在し、かつ前記内側スリーブの前記遠位端は、前記外側スリーブの前記遠位端を越えて遠位に延在し、

前記内側スリーブの前記近位端および前記遠位端は、その中に前記装置が用いられる骨の髄管に挿入されるように寸法決めおよび成形されている装置。

【請求項 2】

前記内側スリーブおよび前記外側スリーブのうちの少なくとも 1 つは、流体を通過させるが骨移植材料を通過させないように寸法決めされた、そこを通過して延在する複数の開口部を含む、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記内側スリーブおよび前記外側スリーブのうちの 1 つは、前記装置をその長手軸に沿って曲げることができるように、その外周の一部を通過して延在する複数のスリットを含む、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

前記内側スリーブの輪郭は、その中に前記装置が用いられる骨の髄管の輪郭に実質的に一致するように選択されている、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

前記外側スリーブの輪郭は、その中に前記装置が用いられる骨の外面の輪郭に実質的に一致するように選択されている、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】

前記内側スリーブの前記近位端および前記遠位端のうちの 1 つは、前記近位端および前記遠位端のうちの前記 1 つを、その中にそれらが受容される髄管よりも大きな空間にわたって顎部が延在する離間構成に向かって付勢された対向する顎部に分離するための、そこ

を通過して延在する長手スリットを含み、前記顎部は、髄管内に放出されるとそれとの摩擦嵌めを創出するように、前記近位端および遠位端のうちの前記１つが髄管に挿入されるように寸法決めされている挿入構成まで互いに対して柔軟に移動可能である、請求項１に記載の装置。

【請求項７】

前記近位端の近位先端部は髄管への挿入を容易にするために丸みを帯びている、請求項１に記載の装置。

【請求項８】

前記外側スリーブは、その長さの一部に沿って長手方向に延在する補強部を備え、前記補強部は、前記外側スリーブの残りの部分よりも厚い壁厚を有する、請求項１に記載の装置。

【請求項９】

前記外側スリーブは、その中に固定要素を受容するように寸法決めされた前記補強部を通過して延在するスロットを含む、請求項８に記載の装置。

【請求項１０】

前記内側スリーブおよび前記外側スリーブは一体に形成されており、その間を長手方向に延在する複数のリブにより互いに接続されている、請求項１に記載の装置。

【請求項１１】

前記内側スリーブおよび前記外側スリーブは取り外し可能に互いに接続されている、請求項１に記載の装置。

【請求項１２】

前記内側スリーブおよび前記外側スリーブのうちの少なくとも１つは、流体を通過させるが骨移植材料を通過させないメッシュ材で形成されている、請求項１に記載の装置。

【請求項１３】

前記内側スリーブの内腔は、その中に髄内釘を収容するように寸法決めおよび成形されている、請求項１に記載の装置。

【請求項１４】

前記外側スリーブの前記近位端および前記遠位端のうちの１つから延在するタブをさらに備え、前記外側スリーブを前記骨に固定するための固定要素を受容するように寸法決めおよび成形されたそこを通過して延在する穴を含む、請求項１に記載の装置。